

クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して

今年で 4 回目になるクリスマスマーケット in Toyama を金城教養ゼミ、鈴木教養ゼミ、竹澤教養ゼミと合同で開催しました。

金城ゼミについて



このゼミでは昨年12月6日(土)に行われたクリスマスマーケット in TOYAMAに向けて活動してきた。活動内容としては、ドイツ料理の会や五箇山へのフィールドワーク、土人形作り体験などを通して、ドイツや富山の民俗学について学び、本マーケットでアヒル釣りのルールを決めた。当日は、ドイツの菓子や土人形、五箇山和紙などのを販売し、アヒル釣りをではたくさんの子どもたちと触れ合うことができた。



クリスマスマーケットについて

ドイツで盛んなクリスマスマーケットは11月下旬から12月24日までの4週間行われます。人々は暖かな光の中、クリスマスに備えてツリーの装飾品やギフトをそろえ、温かい食べ物や飲み物を楽しむそうです。今回はクリスマスマーケットならではの、お菓子和雑貨を販売しました。

今回販売したお菓子は、シュトレン・シュベクラチウス・レープクーヘンです。雑貨は、日本では買えないドイツで売られているものを販売しました。



アヒル釣り

・ルール

2分間でできるだけアヒルを釣る。釣れたアヒルの数によって違う景品がもらえる。

・工夫した点

自分たちが最初に考えたルールでは、小さい子には難しかったので、途中でルールを変更した。

当日は100人以上の人が来てくれました！



五箇山和紙について

- ・富山県南砺市五箇山地域で作られてきた、日本の伝統的な手漉き和紙
- ・約300年以上の歴史
- ・原料には主に楮（こうぞ）が使われ、雪解け水と職人の手作業によって、一枚一枚丁寧に作られる。



- ・江戸時代には加賀藩への献上品としても用いられ現在では書道用紙や工芸品、照明、インテリアなど幅広い分野で活用されている。

<https://japancheape.com/travel/discover-the-authentic-charm-of-gokuyama/>



クリスマスマーケットを終えて



- ・当日は、お客さんが思っている以上にきてとてもありがたかったです。来年は行く側として参加するのもありだなと思いました！
- ・会場全体が明るく楽しい雰囲気、その中で働けるのがとても心地良かったです。事前の準備や段取りをしっかり整えることが改めて大切だと気付いた。
- ・ルールを途中で変更するなどして臨機応変に対応することができてよかった。初めてこういった体験をして、やる前はうまくいくかわからなかったけど、メンバーと協力して準備をして取り組めたので良かった。
- ・僕はアヒル釣りを担当して、思っているよりも多くの人に遊んでもらえたことがとてもうれしかった。子供たちからしか得ることができない幸せを感じられて、心が穏やかになりました。
- ・自分たちの地域（ドイツ）の文化を楽しんでもらえるのを見て、とてもうれしく誇らしく感じた。今日の経験を通して努力が実る喜びや、人につながる楽しさを改めて実感しました。
- ・小さな子供たちが想像の何倍も楽しそうにしてくれてよかった。
- ・ドイツのお菓子やドイツのボードゲームが売れたこと、アヒル釣りの人気が高かったことが良かった。



←製作教室（鈴木ゼミ・竹澤ゼミ）



2025 年度教養ゼミ（担当 金城朱美）：

天野 将吾、池原 柊人、今井 悠太、岩井 佑樹、小林 裕大、柴田 貴弘、太川 巴琉、田中 慧人、鍋島 梨緒、畑 璃空、本間 虎太郎、松崎 瑛太、松波 優二、道井 亜海

- ・小さい子が多かったので親しみやすいように自分の目線をさげ、目線を同じ高さにして接した。
- ・実際に商品を買われた方たちは、小さいものを買っていった方が多かったので、来年からはもっと小さめの手の出しやすいものを売った方がいいのかなと思いました。
- ・商品を目に留まりやすい場所にまとめておいたことで、自然とブース前に足を止めてもらえるように工夫しました。
- ・普段は通り過ぎるだけの駅が、この日はちょっとした遊び場みたいになっていて、地域の人たちとより近くで関わられた時間になりました。
- ・全体として、想像以上の来場者があり、対応に追われる場面がありましたが、多くの方に楽しんでいただけたことは大きな成果でした。
- ・アヒル釣りで、小さな子がうまく釣れなかったときに声をかけて励ましたり、説明を短く簡単にしたりと、相手に合わせて対応することの大切さを実感した。
- ・様々な年代の人や海外の人が来て、今まで体験したことのないことができて良かったです。ドイツのクリスマスマーケットにいつか行って見て、食べ物を食べたり、雑貨を見てみたいと思います。